

# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## 惜別 江差線

桧山医師会 会長 鶴谷 隆司

かつては全国に多数存在していたローカル線も過疎化やモータリゼーションにより利用客の減少が続き次々と廃線になっている。

江差駅を発着する唯一の路線である江差線は1936(昭和11)年函館五稜郭から江差まで全通した。しかし江差線のうち木古内～江差間が平成26年5月に廃止されることになり、檜山管内から鉄道がすべてなくなることとなった。北海道新幹線の平成27年度の運行開始が引き金であるが、以前より道内で乗降客が最も少ない区間であり、また山間部を走るため鉄橋やトンネル、防雪設備等が多く維持管理費も高額のため道内の赤字路線である。現在1日6往復しておりディーゼルカー1両の運行である。昨年までは1両に2、3人の乗客しか乗っていないことが多かったが廃止の発表を受けてから全国の鉄道ファンや観光客が増え、静かなブームが続いている。記念切符などの売り上げも好調でまさに最後の明かりを灯しているようだ。今後はバス路線に転換する予定とのこと。

私は江差に来てもうじき20年になるが、実は江差線に乗ったのは2年前が初めてである。JR海峡線に乗るため木古内まで車で行こうと準備していたが大雨の影響で道路が通行止めになっていた。困ったなと思っていたら誰かから江差線は運行しているようだと言われ、これ幸いと乗ってみた。木古内まで42キロ余り、ちょうどフルマラソンとほぼ同じ距離の間に10の駅がある。その時点ではまだ廃線になるとは決まっていなかったが、おそらく廃線になるだろうと地元の人々の多くは思っていたのではないだろうか。乗客は私以外2、3人しか乗っていなかった。私は興味津々の子どものように終点に着くまでの1時間ほど車窓にじっと目を凝らしていた。いつもの車での景色と違い、新鮮な感動に浸っていた。ノスタルジーと言われそうだが、かつて人々でにぎわっていた光景が目をつむると脳裏に浮かんだ気がした。



## 時間の矢

寿都医師会 会長 秀毛 寛己

秋の日の連休初日、姪の結婚式で新潟と札幌を往復。慌ただしい移動の機内でふと気付けばもう2013年も3月ばかりとなった。暑くて久しぶりにエアコンをつけた夏は少し前なのにはるかに遠く感じる。改めて自分の今年を振り返ってみれば、それまでと少し違うイベントに彩られていることに気付く。まだ未消化の予定もあるのだが。まず、医師体制がやっと定数に満ちたおかげで他院の応援に出られた。2～3月の冬の最繁忙期に後志の2次基幹病院のボランティア内科応援である。常勤医師1名となる端境期を支援した。4月と7月にはそれまで一人体制であったため行けなくて諦めていた専門医の特例更新のために単位を取れる全国学会に行けた。

また私事であるがここ2年ほど気になっていた歯科治療と手術も落ち着いてようやく済ませることができた。さらに亡父の不動産相続登記もできた。秋には昨年が続いて全国自治体病院学会発表も予定している。

また今年には北海道が国診協現地研究会のホストであったため、全体討論会座長のほか懇親会のウェイターも体験した。ホストといえば来る10月19日は、初めて寿都医師会が後志ブロック医師大会を主催する予定となっている。

夏休みの最後、北海道や道医との共催事業で青少年育成事業のお手伝いをした。当地の中学2年生に対して約40分ほどであったが疑似体験の実技指導などを病院スタッフと共に行った。学生のECEとも違い、われわれにとっても新鮮で有意義に思えたことも今年のトピックの一つである。

以上、すべて医師一人体制ではないからできたことだが、実は今年11月末までに医師会の法人化をなんとか間に合わせなければという一番大きな仕事はまだ残っている。北海道の郡市医師会では最小規模に近い医師会だが、なんとかめげずに頑張りたいと思うこの頃である。